

第2節 殺馬殺牛儀礼について

平安時代の農村は、「かたあらし」とよばれるように、耕地は放棄されて荒廃したものが多く、稲穂などの実りは耕地全体の三割強であったといわれている。その背景には律令体制の矛盾の展開によって、多くの班田農民層の逃亡・浮浪化し、不安定労働力として在地から流失し始めたことがある。彼らは、在地の富豪層や国司などの開発のための労働力確保策である招き居えに応じ、新たに定着と耕作を開始し始めていた。こうして、富豪層や国司らは、「かたあらし」といわれる耕地の荒廃を再開発し、稲・麦などの「満作」を目指した。しかし、平安時代は次第に気温上昇した時期であり、早魃などの被害が頻発したほか、洪水も多く起こるなどの異常気象が続いた時代でもあった。それが疫病の流行の呼び水ともなり、これが当時の人々には政変によって亡くなった多くの政治家たち（早良親王や菅原道真など）の怨念という迷信と結びつき、「ヤスライ」や「天神」などの御霊信仰が流行するきっかけともなり、時にはそれが当時の政治批判に発展する民衆運動を引き起こすことにもなった。早魃と水不足に悩む一方で、一度降り始めれば洪水を引き起こすほどの大雨にさらされる当時の人々にとって、農耕は天候との戦いであり、それを神々の為せる業とみなした彼らは、その鎮めの祈りをこめて、様々な祭礼を各地で展開した。「ヤスライ」＝「牛頭天王」を祭る祇園祭などが始まるのはこのようなさなかのことである。

地耕面遺跡は、このような時代背景のもとで、雨乞いに際して使用されたと思われる遺物と動物遺体が発掘された。まず遺物として確認されたのは、「斎串」で、杉、桧を素材とし、大きさは200～500mm、幅5～15mm、厚さ5～10mmで、両端を尖らせたり、切断したりしてあり、さらに焼いた跡が見受けられる。これを水路の特定の場所に刺して、神の依代＝降臨の場とする意図があったと考えられる。これにいけにえとして馬や牛を殺してその首を斎串を刺した水路に投げ込み、雨乞を行なったと考えられています。なぜ馬を殺して供えたのかについては、馬は竜の化身と考えられており、竜是水神と考えられていたので、水に関わる祈りに供えられたと思われる。『続日本紀』の中に、雨乞の際には生きた黒い馬を供え、逆に降り続く雨を止める祈り際には、白い馬を供えたことが記されており、その際に供えられた馬を「河之精也」と記していることことから、水と馬との不可分の関係が窺われる。また、同時にモモ・クルミも発掘されており、ともに邪悪なものをはらう意味を込めて使われたと考えられる。馬・牛を殺害する時のケガレをはらうことを意図したものか。

さて、それではそのような祈雨祭礼を一体だれが主催したのであろうか。はっきりしたことは明らかにならなかったが、文献から幾つの特徴を窺い知ることができる。等に注目すべきは『日本霊異記』の中に、「富豪」が主催し、近辺の民衆を集めて殺した牛を神に供えたあと、それを参加した人々とともに共食するという説話が収められている。これによると、当時の民衆は「富豪殷富之輩」といわれる富豪層の影響下に置かれ、彼らの主催による殺馬・殺牛儀礼＝祈雨・止雨祭礼が行なわれていたと見られる。特に馬は当時大変高価であり、「下馬」でも「三百束」と『延喜式』に見られるので、それを殺して供えるという祭祀を主催できるのは、

やはり相当の有力者であったことは間違いない。しかしこのような祭祀はその後、「牛馬は軍国の資」とする当時の王朝政府によって度々禁止されるが、多くの遺跡からの事例が示すように、民間習俗としてその効力を信じられ、根強く行なわれていた。民衆の生活に密着した土俗の習俗は、政治権力の意図を越えて強力な生命力を保持し続け、その前には、天皇制の権力と祭祀体系はあまり意味を持たなかったのではないだろうか。

参考文献

- ・戸田芳美『初期中世社会の研究』
- ・河音能平『中世封建社会の首都と農村』
- ・佐伯有清「八・九世紀の交における民間信仰の史的考察―殺牛祭神をめぐる―」『古代の政治と社会』
- ・『伊場木簡の研究』

第3節 紡錘車について

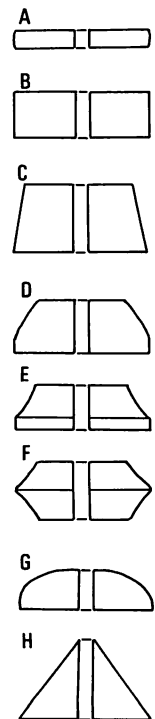
1、地耕免遺跡で、1点の紡錘車が出土しているので、紡錘車の位置付けを考えるで、山梨県内の紡錘車全体を概観し、その形態分類をし、時間的な位置付けを考えてみたいと思う。

紡錘車の形態分類は、紡円の断面形の分類から始めるのが望ましいと考える。紡軸が遺存していれば、軸の比率をも考慮する必要があるだろう。この点は鉄紡錘車のところで触れることにしたい。

断面の分類（土製、石製紡錘車）

- A類 断面が扁平なもの。
- B類 断面が厚く、長方形をなすもの。
- C類 断面が台形をなすもの。
- D類 断面が台のついた台形で側面が膨らむもの。
- E類 断面が台のついた台形で側面がくぼむもの。
- F類 台形の断面が底辺に対して相似形のもの。
- G類 断面がカマボコ形をなすもの。
- H類 断面が陣傘形をなすもの。

以上がおおまかな分類である。なおこれに土製、石製の分類が加わる。



第35図 紡錘車模式図